

## 序

当研究所は、昭和52年度も恒例の事業として教育論文集の刊行を企画し、論説の部・実践記録の部・翻訳の部に分けて原稿募集をいたしましたところ、各校の先生方から22編の原稿をお寄せいただきました。

本年は、22編のうち3編が論説、18編が実践記録、1編が翻訳となっています。論説は、いずれも新教育課程に関するテーマをとりあげ、教育とは何かを問いかけながら、教育の本質に迫ろうとしています。

実践記録は18編のうち5編は、学校としての研究あるいは学年での研究で占めております。また、この実践記録18編のうち6編のみが教科指導に関するもので、他の12編はいわゆる教科外の教育指導に関するものであります。このような実践記録の全体的傾向をみますと、現在の足利の教育研究は、学校の全職員による研究や、その継続研究が多くなっているのではないかと推察されます。また、先生方の研究の関心も、いわゆる知的な教育指導の問題から直接人間資質の形成にかかわるような問題へと拡大、深化しているようにも考えられます。

なお翻訳1編は、アメリカの小学校理科教科書の翻訳ですが、特に、小学校低学年理科の指導に参考となる点が多いと思われまますので、研究所保管のアメリカ教科書と対照して、読まれるようおすすめいたします。

いずれの論文も、最近の教育思潮の動向を敏感には握しながら、しかも腰をすえて教育の原点を探るといふ様子が伺われます。このような先生方の姿勢こそ、今後の新しい足利の教育を築く大きな原動力になるのではないかと大きな期待を感じております。

以上、各先生方からそれぞれ特徴をもった論文をお寄せいただきましたが、各学校における日々の教育実践に十分生かされ、本市教育の発展に寄与されることを期待いたします。

終わりに、論文をお寄せくださった先生方をはじめ関係者の方々にお礼申し上げるとともに、みなさまのますますの御活躍を祈念して序といたします。

昭和53年3月

足利市立教育研究所長

川 上 薫